

## 4 保護者とつながる

### 事例 10

### 「母国が同じ保護者同士の関わり」 ～言葉が通じることの安心感～

5歳児の保護者 5月(在日6ヶ月)

#### こんな時、 どうするの？

5月に入園したA児は、日本へ来て半年であり、父親は日本語が理解できるが、母親とA児は理解できない。

園からのおたよりは家庭へ配信しており、送迎の際に、A児の母親には翻訳アプリ等を活用し、配信した内容を伝えている。しかし、母親の表情から全部は理解できていない様子が感じられた。

入園から一週間後、園行事でミニ運動会が行われることになった。

#### こうしたよ！

ミニ運動会は、親子参加の行事で通常の保育時間を短縮して午前活動で降園となる。

朝、親子で登園してくるA児を受け入れると、手に弁当を持っており、母親に手を振って別れようとしている。ミニ運動会では園児のかけっこや親子で一緒に取り組む競技プログラムがあるため「お母さん、今日は園と一緒に活動できますか？」と声を掛けた。母親は、よく分からない様子だったが、帰らずに園庭で待ってくれることになった。

保育者は母親に「今日はAちゃんが走るよ(かけっこ)」とジェスチャーで伝えたが、今日がどんな日なのか伝わっていない様子だった。親子競技と一緒に大玉転がしの競技にも参加してもらいたいが、どう理解を進めるべきか考えた。

そこで、他学年の保護者ではあるが、A児の母親と同じ国の出身で、日本語が堪能なB児の母親の存在を思い出した。



同じ母語をもつ保護者の存在を知らせ、つながりがもてるように仲介しました。



B児の母親にお願いをすると、快諾し、すぐにA児の母親に今日の園での活動について説明をした。A児の母親は疑問だったことを尋ねながら、大きくうなずき納得の笑顔を見せた。

B児の母親がスマホを取り出し、連絡先の交換を提案し、二人は連絡が取り合えるようになった。



【保護者同士で連絡先を交換】

A児の母親は、分からないことを質問でき、安心したようでした。また、「どの地域の出身？」などと尋ね、同じ国籍の人に出会えるうれしさを感じているようでした。



ここが大事！

### 様々な連携先を探り、つながっておくことが大切です

園で通訳は簡単には手配できませんが、園に同じ母語をもつ保護者がいれば、協力をお願いできることもあります。また、市役所などに外国語支援の人材が配置されているかどうかという情報を園として把握しておき、日頃から連携を図っておくことも大切です。外国籍の保護者が孤立しないように支援していく必要があります。

### コラム 保護者をつなぐ様々なサポートがあります

保護者が周りにつながれるよう、各園で工夫していることがあります。

当園では、同じ国籍の子供が触れ合える機会を設けつつ、保護者同士もつながるように仲介しています。母語や母国の文化が分かる人と交流を重ねることで、保護者が言語や文化の違いから抱く困り感の軽減の一助としています。また、行事の際に先輩の外国籍の保護者に通訳として手伝ってもらうこともしています。



私たちの園では、外国語の話せる保育士人材を雇用することで、日々の活動や保護者とのコミュニケーションがよりスムーズに進められるようにしています。

